

第2章 ビジョン(将来の目指す姿)

今後、さらに少子高齢化が進み、多死社会が訪れることが避けられない中、どのような姿を目指していくことが望ましいのでしょうか。

葬送に対する考え方や、希望する葬送の形は人それぞれであり、誰かに押し付けられるものではないことから、この基本構想では「葬送のあるべき姿」を示してはいません。

しかし、先に述べたような無縁墓や無縁仏など、故人の尊厳を保つことが難しくなるが増えると考えられます。

それぞれの状況の中で、希望する葬送を可能な限り実現できるようにすることにより、葬送に対する不安を解消して、安心して暮らし続けられるまちなしていく必要があると考え、以下のビジョン(将来の目指す姿)を掲げます。

【図2-1 ビジョン(将来の目指す姿)と具体的なイメージ】

【ビジョン(将来の目指す姿)】

みんなが尊厳ある葬送を実現できるまち
～葬送に不安なく、安心して暮らし続けるために～

【具体的なイメージ】

【意識が変わり行動している】

- 生前に葬送のことを考えて準備している
- 準備したことを身近な人と共有している

【安定的な環境が整備されている】

- 必要な葬送を実現する体制が整っている
- 火葬場や墓地などが安定的に運営できている

○ビジョンの実現に向けて

行政と葬送関連の事業者が協力して、市民が希望する葬送の実現のお手伝いをする体制を整えたり、多死社会に対応した火葬場や墓地を安定的に運営したりするだけでは、ビジョンは実現できません。

これらを利用する市民のみなさんが、「いつか必ず身近な人の最期を見送る、または自分自身が見送られることになる」という事実をしっかりと受け止め、考え、準備をするという、行動に繋げることが、ビジョン実現のためには欠かせないのです。